

今日のキーワード 天候要因の影響が続くと見られる『街角景気』

「景気ウォッチャー調査」、いわゆる『街角景気』とは、景気に敏感なタクシー運転手や小売店、メーカー、輸送業、広告代理店など、地域の景気の動きを敏感に観察できる立場にある約2,000人を対象とした調査です。8月の『街角景気』では、7月の豪雨や猛暑の影響の反動が見られ、前月比+2.1ポイントの改善となりました。ただし、9月に入ってから地震や台風が各地に被害をもたらしており、当面は天候要因などに注意が必要です。

ポイント1

現状判断DIは前月比+2.1ポイントの48.7

7月の豪雨の影響は和らぐも、引き続き中立水準の50を下回る状況が続く

- 8月の『街角景気』によると、現状判断DIは前月比+2.1ポイントの48.7（季節調整値）となりました。項目別では、家計動向関連の住宅関連、雇用関連を除き、前月から改善しました。特に、家計動向関連の飲食関連、サービス関連は5ポイント超の大幅な改善となりました。
- 7月は西日本豪雨の影響により、地域別に見ると四国、中国を中心に前月比で大きく低下していました。8月はこの反動から、四国は前月比+5.7ポイント、中国は同+3.7ポイントと改善が見られました。

ポイント2

ウォッチャーのコメントを分析

気象条件や通商問題に関するコメントが増加

- 街角の声をより客観的に分析する、当社独自のテキストマイニングによる分析手法（*）によると、ウォッチャーのコメントからは景気に引き続き慎重な姿勢が見られます。
- 引き続き「猛暑」の使用頻度が高水準となったほか、「豪雨」や「台風」など、気象条件に言及するコメントが目立ちました。一方で、通商問題に関わる単語の使用数も増加し、米国の通商政策の『街角景気』への影響度は着実に高まっていると見られます。

（*）テキスト（文書）をコンピュータで探索する技術の総称。典型的な方法として、テキストにおける単語の使用頻度を測定し、テキストの特徴を統計的に分析・可視化することで、背後にある有益な情報を探ることができます。



今後の展開

地震や台風など、自然災害による景況感の下押し圧力が続きそう

- 先行き判断DIは前月比+2.4ポイントの51.4となりました。内閣府は、「緩やかな回復基調が続いている。人手不足、コストの上昇等に対する懸念もある一方、秋物商戦や受注増等への期待がみられる」と、概ね前月から景気の基調判断を据え置きました。ただし、8月調査（調査期間は8月25日～31日）を終えた後、9月上旬には北海道胆振東部地震や、強力な台風21号が各地に大きな被害をもたらしています。次回9月調査にもこうした天候不順などの影響が表れると考えられ、当面は自然災害が景況感を下押しする状況が続きそうです。

ここも チェック!

2018年9月 4日 『米中貿易摩擦』、成長率等への影響の考察

2018年8月10日 豪雨や猛暑が影響した7月の『街角景気』

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。